



仲間ができたなら楽しくなって、 自然とうまいくようになってきました。

わさび屋 株式会社 代表 森 紀子さん

もり・のりこ ● 1999年に建設会社の夫と結婚し、経理を担当。リーマンショックによる異業種参入でワサビ畑を購入後、農業経営を任せられ、2010年にわさび屋株式会社を設立。2017年「農業の未来を作る女性活躍経営体100選」に認定。2023年9月からは岐阜県農業法人協会の会長を務める。

【生産物】 ワサビ、加工品
【営農地】 郡上市和良町
【農地面積】 約30a
【営農開始年】 2010年～

郡上市和良町の洞穴から年中湧き出る湧水でワサビを育てるわさび屋の森さん。もとは農業とは縁のない夫の建設会社で家業を支えていましたが、時代の変化に揉まれる中でワサビ畑の管理を引き受けると、本業が忙しい夫に代わって、森さんが農業経営を一手に担うことに。商談や勉強会に必死に足を運び、人とのつながりを構築。自然とスタッフも集まり、「たくさんの仲間ができて楽しくなっていった」と森さん。今では加工品も数多く手がけ、ワサビの魅力を広めています。

きっかけは会社の危機 農業という未知の世界へ

夫が営む建設会社で、経理と事務を担っていた森さん。しかし建設業は2008年のリーマンショックで大打撃を受け、業界全体で異業種参入の流れが高まりました。ちょうどそのころ、郡上市和良地域のワサビ農家が後継者を探している話を聞きます。自然が好きな夫は乗り気な一方、紀子さんはあまり気が進まなかったといいます。しかし「試しに畑を見てみようか」となり現場へ。季節は1月。畑に着くと、雪がちらつく中で畑全体を水蒸気が包み込むという、幻想的なワサビ田が広がっていました。この風景に紀子さんは感動し、畑を買い取ってワサビ栽培を始めることに賛成し、2010年にわさび屋を起業しました。



しかし建設業一筋の夫は本業の忙しさに加え、栽培補助にと雇用したパートの女性たちとのコミュニケーションが少し苦手でした。「借金してまで始めた事業。誰かが魂を注いでやらな

いと、会社が潰れてしまう」と感じた森さんは、ワサビ栽培を一手に引き受けることに。全く新しい挑戦がスタートしました。

人脈づくりに全国へ 徐々に経営も軌道に

同市和良町の名所で「蛇穴(じゃあな)」と呼ばれる鍾乳洞の湧き水を引いて、ワサビを栽培していた先代の生産者。蛇穴の水は岐阜県名水50選に選ばれており、1年を通して水温が13℃に保たれ、ワサビ栽培に最適でした。森さんもこの栽培方法を受け継ぎ、農業を使わずに育てています。水と太陽、豊かな自然に育まれた和良のワサビは、粘り気があって香りが長く持ち、爽やかな辛さが口全体に広がり、本来のおいしさが引き出されていると評判です。

しかし起業当初の売り上げは決して良くありませんでした。森さんは販路拡大のため、商談会や異業種交流会など、全国各地に出向きました。1週間泊まり込みの経営勉強会に参加したこともあります。それ以前は裏方の仕事をしてきた森さん。新たな場所へ行くたびに、「場違いなんじゃないか」と、緊張や恥ずかしさに胸が押しつぶされそうになりながら、必死に名刺交換を続けました。

徐々に知り合いが増えてくると、人から人へ、新たな紹介や提案が次々につながるように。たった一人で戦っていたところから、たくさんの仲間が増え、楽しくなってきたと振り返ります。「楽

しいと思えるのは大事。そうしたら、自然と経営もうまいくようになった」と、笑顔を見せます。現在では全国各地のホテルやレストランで使われるほど、森さんのワサビは認められるようになりました。

女性スタッフたちと 生み出す豊かな加工品

森さんは、収穫したワサビを自社加工施設で数種類の商品に加工・販売する6次産業化にも取り組んでいます。もともと先代が「わさびみそ」と「わさびのり」に情熱をそそいでおり、「この味を引き継いでほしい」とお願いされたことが始まり。この2品の他にも、わさび屋を支える女性スタッフらと意見を出し合い、チューブに入った練りワサビ「あらずりわさび」や「わさび塩」、「わさび茶漬け」など、魅力あふれる様々な商品を開発してきました。ラインアップは年々豊かになり、ギフトセットも販売。地域の特産品としての地位も確立してきました。

わさび屋では生産から加工品の開発、販売まで、ほとんどの場面で女性スタッフが活躍しています。これらが注目され、2017年には「農業の未来をつくる女性活躍経営体100選」に選定されました。

「大自然の恵みをいただいてできている仕事。地域にたくさん恩返ししていきたい」。心強い仲間とともに、さらなるステップアップを目指します。

地元の女性が長く活躍できる環境を整備

わさび屋を支えるスタッフはほとんどが女性。仕事内容は農作業、加工、販売と多岐にわたりますが、個々の長所を生かせる場所で働けるよう工夫しています。また、子育て中のスタッフには特に「家族優先」をすすめているという森さん。これは自身も2人の母であり、「私は仕事に必死だったけれど、子育ての期間は本当に一瞬。その一瞬を大切にしてほしい」という思いから。だからこそ、産休育休はもちろん学校行事等の休みも柔軟に取れるようにしています。近年は孫休暇や介護休暇などにも対応して、女性が長く働きやすい環境を整えています。



わさび屋(株)の紹介

郡上八幡ICのすぐ近くに構えるアンテナショップは、水曜と日曜を除いて10時から18時まで営業しています。郡上のお土産として買いに来る観光客のほかにも、1年中収穫ができるおいしい青果ワサビを求めて、地元の人も頻りに訪れます。

オンラインショップから、ギフトセットやさまざまな加工品を見ることができます。

わさび屋
郡上市八幡町五町 1-8-1
TEL.0575-67-9033

